

感染症情報 8月21日～27日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	655例(堺市	29例)
②RSウイルス感染症	534例(堺市	47例)
③手足口病	438例(堺市	27例)
④溶連菌感染症	251例(堺市	15例)
⑤ヘルパンギーナ	183例(堺市	18例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	34例(堺市	2例)
---------	--------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週から9.4%増の2,390件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、手足口病、溶連菌感染症、ヘルパンギーナの順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比21%増、堺市で前週比22%減であった。2位のRSウイルス感染症は府下で前週比8%増、堺市で38%増であった。定点当たり前週が2.5→今回2.7になった。手足口病は府下で前週比11%減、堺市で25%減であった。溶連菌感染症は府下で前週から33%増、堺市では前週18例→今回15例であった。ヘルパンギーナは府下で前週比12%増、堺市では前週8例→今回18例に増加した。

インフルエンザは府下では前週28例→今回34例に増加、堺市では前週0であったが、今回2例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。